

#### 4月号 (71-04) 著者プロフィール

1. 生年月日
2. 出身地
3. 出身高校
4. 出身大学
5. 研究テーマ
6. 最近思うこと
7. 信条
8. 最近、感銘を受けた1冊
9. 趣味
10. ごひいきの球団, チーム, 番組
11. ホームページ

### ●特集：自然界の神秘に挑む！天然物の全合成

#### ◆ インタビュー ◆ 自然界に学び, 自然を超す これぞ全合成の醍醐味！



竜田 邦明 (たつた くにあき)  
早稲田大学栄誉フェロー, 名誉教授

1. 1940年
2. 大阪府
4. 1968年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了
5. 有機合成化学, 生理活性物質科学
9. ドライブ, スポーツ観戦

#### ◆ 紹 介 ◆ 日本における天然物の全合成研究の変遷

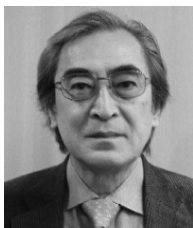


只野 金一 (ただの きんいち)  
慶應義塾大学名誉教授

1. 1948年
2. 千葉県
3. 慶應義塾高等学校
4. 1975年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了
5. 慶應義塾大学理工学部教授職を定年退職して3年 (2013年3月退職)、それまでは35年間天然物合成を主なるテーマとして、有機合成化学の領域で研究活動を続けてきました。
6. 私が若い頃に比べると、現代の若い研究者は情報量の過剰が故に、有機合成化学の奥行きの高さを見落としがちのようです。日々の研究に、こだわりを持ち続けて欲しいと思います。
7. 初志貫徹
8. 曾野綾子 著『人間の分際』幻冬舎
9. ランニング、ドライブ
10. 小学校の頃より阪神タイガースファンではいるのですが…。

◆ 後世に伝えたい全合成——達成までのドラマ ◆

キラリティーを制御して炭素をつなげる



柴崎 正勝 (しばさき まさかつ)

公益財団法人微生物化学研究会理事長，微生物化学研究所所長

1. 1947年
  2. 埼玉県
  3. 埼玉県立浦和高等学校
  4. 1969年東京大学薬学部卒業，1974年同大学大学院薬学系研究科博士課程修了
  5. 不斉触媒の創製と応用
  6. 日本の科学・技術の世界における優位性をいかに維持していくか？
  9. スポーツ観戦，読書
- 



渡辺 匠 (わたなべ たくみ)

公益財団法人微生物化学研究会微生物化学研究所有機合成研究部部長

1. 1968年
2. 秋田県
3. 千葉県立東葛飾高校
4. 1992年東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了，博士（工学）
5. 生物活性天然物の合成および医薬化学的展開
9. ジョギング
10. 巨人，FC東京

◆ 後世に伝えたい全合成——達成までのドラマ ◆ 「地の利・人の和」を生かす



平間 正博 (ひらま まさひろ)

東北大学名誉教授，(株)アクロスケール取締役

1. 1948年
2. 東京都
3. 県立福島高校
4. 1977年東北大学大学院理学研究科博士課程修了

5. 有機合成化学、天然物合成化学、天然物の全合成、糖タンパク質の人工合成・品質管理
6. 命の大切さ。生きていることの素晴らしさ。他人への思いやり。どうしたらヤセられるか？
7. 明るく楽しむ。
9. クルマの運転・ドライブ・旅行・散歩
10. 楽天、ベガルタ仙台

◆ 後世に伝えたい全合成——達成までのドラマ ◆ 全合成には「考え続ける頭」が必要！



福山 透 (ふくやま とおる)

名古屋大学大学院創薬科学研究科特任教授，東京大学名誉教授

1. 1948年8月9日
2. 愛知県
3. 愛知県立岡崎高等学校
4. 1977年ハーバード大学大学院化学科修了，Ph.D.
5. 医薬的に重要な天然物の全合成研究
6. 有終の美を飾るには？
7. 独自色をだしたい
9. 野菜づくり
10. 中日ドラゴンズ
11. [http://www.ps.nagoya-u.ac.jp/lab\\_pages/natural\\_products/index.html](http://www.ps.nagoya-u.ac.jp/lab_pages/natural_products/index.html)

◆ 全合成の最先端研究① ◆ カスケード型環化反応による天然物合成の効率化



西川 俊夫 (にしかわ としお)

名古屋大学大学院生命農学研究科教授

1. 1962年
2. 長野県
3. 長野県諏訪清陵高等学校
4. 1985年静岡大学理学部卒業、1987年名古屋大学大学院農学研究科（農学部食品工業化学科）博士（前期）課程修了、博士（農学）
5. 天然物合成とそれを活用したケミカルバイオロジー研究
6. 天然物の合成法は時代とともに優れたものに確実に置き換わってゆくが、有機合成を使って得た新事実（新しい生物活性など）は永遠だろう。天然物合成でサイエンスに何を残す事ができるか自問自答している。

8. (最近感銘を受ける本に出会わない)
9. 古城、古墳巡り。長期にわたって楽しめそうな合成標的となる天然物を探す事。
10. (なし)
11. <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~organic/>

◆ 全合成の最先端研究② ◆ 全合成における芳香環——形成したい/崩したい



犀川 陽子 (さいかわ ようこ)  
慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授

1. 1975年
2. 川崎市
3. 神奈川県立多摩高等学校
4. 2003年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程単位取得退学
5. ポリケチド系天然有機化合物の全合成, 生物現象を司る有機化合物の探索
7. モノ (研究対象) をよくみる
8. 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社
9. 山歩き, ピアノ
10. なし
11. <http://www.applc.keio.ac.jp/~msynktxa/index/>

◆ 全合成の最先端研究③ ◆

シアタンジテルペノイド類の不斉全合成——興味の尽きない全合成中心の研究



中田 雅久 (なかだ まさひさ)  
早稲田大学理工学術院化学・生命化学科教授

4. 1986年東京大学大学院薬学系研究科博士課程中退, 薬学博士
5. 生物活性天然物の不斉全合成, 反応・合成手法の開発, ケミカルバイオロジー
9. 釣り, スポーツ

◆ 全合成の最先端研究④ ◆

リアノジン類の統一的全合成——多様性を志向した共通中間体の設計戦略



長友 優典 (ながとも まさのり)

東京大学大学院薬学系研究科助教

1. 1983 年
  2. 宮崎県
  3. 宮崎県立宮崎西高等学校理数科
  4. 2007 年東京理科大学理学部応用化学科卒業, 2012 年東京大学大学院薬学系研究科統合薬学専攻博士後期課程修了
  5. 生物活性天然物の合成
  8. 小山宙哉『宇宙兄弟』講談社
  9. 剣道 (最近はもっぱら観戦)
  10. 宮崎でキャンプをするチーム
  11. <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~inoue/>
- 



井上 将行 (いのうえ まさゆき)

東京大学大学院薬学系研究科教授

1. 1971 年
2. 東京都
3. 私立武蔵高等学校
4. 1993 年東京大学理学部化学科卒業, 1998 年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了
5. 天然物合成化学, 生物有機化学
9. サイクリング, 海外ドラマ鑑賞
11. <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~inoue/>

◆ 全合成の最先端研究⑤ ◆

超強力生物活性アンフィジノライドNのエピマー合成と短工程ポット合成



林 雄二郎 (はやし ゆうじろう)

東北大学大学院理学研究科化学専攻教授

1. 1962 年
2. 群馬県
4. 1987 年東京大学大学院理学系研究科博士課程中途退学, 1992 年博士 (理学) (東京大学)
5. 有機分子触媒を用いた不斉触媒反応の開発と天然物の全合成
11. <http://www.ykbsc.chem.tohoku.ac.jp>

### ●新連載：色彩の美と科学



田中 陵二 (たなか りょうじ)  
群馬大学理工学部 非常勤准教授

1. 1973 年
2. 群馬県
3. 群馬工業高等専門学校
4. 博士 (工学) (1999 年修了)
5. 有機金属化学, 無機化学
6. 娘が産まれて, 子育てででんやわんやしてます
7. 身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ
8. J. F. Hartwig 著, 小宮三四郎, 穂田宗隆, 岩澤伸治 監訳, 『ハートウィグ 有機遷移金属化学 (上) (下)』東京化学同人
9. 鉱物採集とマクロ写真撮影
11. <https://sites.google.com/site/fluordoublet/>

### ●カガクへの視点



森村 久美子 (もりむら くみこ)  
東京大学大学院工学系研究科准教授

1. 1952 年
2. 兵庫県
3. 神戸女学院高等部
4. 2006 年東京大学大学院学際情報学府博士課程修了
5. 工学部の学生の国際競争力をつけるためのプログラム, スペシャル・イングリッシュレッスン, アカデミック・ライティングなどの推進

6. 日本人はいまだに鎖国状態から抜けきれず、本気で海外で活躍しようという志をもった学生とそうでない学生の二極化がおきているのではないかと危惧しています
7. つねに全力投球
8. 風見梢太郎『浜風を受くる日々に』新日本出版社
9. コーラス（ディズニーシーで歌いました）
11. <http://www.gwp.t.u-tokyo.ac.jp/>